

白布城だより 2024・夏

栃木県立真岡高等学校定時制課程

〒321-4331 栃木県真岡市白布ヶ丘24番地1

☎0285-82-3413 ■FAX0285-82-2913

●巻頭言●

ごあいさつ

教 頭 須藤 優



保護者の皆様、ならびに定時制後援会、地域の皆様には、日頃より本校の教育活動に対し、深いご理解とご支援をいただいておりますこと、心より感謝申し上げます。

本校は、今年も多くの新入生を迎え入れ、生徒も職員も、ともに活気にあふれた学校生活を送っているところであります。新入生・在校生の別なく生活習慣の向上が見られ、生活の基本となる「食」についても今年度は高い給食喫食率を維持しており、新年度を順調にスタートさせる事ができていると考えております。後に本紙にて報告がなされるかとは思いますが、学校行事なども順調に実施され、行事ごとの目的も高いレベルで実現できておりました。学校行事が無事に実施できるのも、皆様の深いご理解

あつてのことと改めて御礼申し上げます。学校とは授業が基本ではありますが、日々の生活から、学校行事、定期テスト、生徒会行事など、学校で行われる全てが高度にパッケージされた教育サービスを受けられる場なのです。本校の教育課程も、授業だけでは完結いたしません。本校が用意する全ての教育活動をもれなく消化することで、本校で目指している人物像に近づきます。2学期以降も職員一丸となり教育活動全般に取り組んで参ります。引き続き皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

さて、生徒諸君、4月に新年度をスタートさせ、いくつかの新しい出会いがあったことと思います。出会いとは人との出会いだけではありません。新しい本との出会い。新しいモノとの出会い。新しい自分との出会い。この4カ月でそれぞれが新しい何かとの出会いがあったのではないのでしょうか。出会いは、私たちに大きな力を与えてくれる身近で素晴らしいイベントですが、なぜ大きな力となり得るのでしょうか。

私たちは社会を形成して生きる生き物ですが、個人どうし、組織どうし、国どうし、相手は異なれど、トラブルが起きがちな生き物でもあります。トラブルは損失ですから、回避したいところです。このような課題の解決に有効なのは豊かな想像力です。言い換えれば相手の立場に立って考える力が必要だということです。一方で、一人の人間の想像力には限界があります。もし人類が不死であるならば足りない想像力を時間が補ってくれます。でも私たちの時間は有限です。だから、出会うことで自分以外の何かから自分一人では思いつかない想像力を学ぶ必要があるのです。これまでに本校で実現した出会いに感謝をし、これからの出会いに心を踊らせる、この夏改めて考えてみていただきたいと思います。

■入学式

4月5日（金）講堂に、佐藤務同窓会長様、鈴木定男定時制後援会長様のご臨席を賜り、全定合同の入学式が挙行されました。真岡高等学校の歴史ある伝統を受け継いだ厳かな式となりました。

荒井博文校長が定時制新入生19名を含む203名に対し、「みなさんがこれまで積み重ねられてきた努力を讃えたい。呼名に対する力強い返事に、これから始まる高校生活への強い意欲が込められていた。今日の感動を今後に生かしてほしい。」と夢と希望に満ちた高校生活への期待を話されました。また本校の校訓である『至誠』の基本精神にも触れられ、「明治33年（1900年）栃木懸第三中學校として創立以来、卒業生26,000余名の人間形成の普遍的理念であり続け、本校で学んだことを社会で結実させ、多くの分野で優れた人材を輩出してきた。」特に定時制新入生に対しては、「高校は義務教育とは違い、自らの意志で入学してきた分、自分への責任が重くなる。昼間はアルバイトで社会とつながり、夜は授業に励んでいる者が大半を占める。その努力が県内随一の高い就職内定率につながった。多忙な中だからこそ、仲間とのコミュニケーションやチームワークを図りながら学校生活を送ってほしい。」と温かなまなざしを向けられました。

佐藤同窓会長様は、ドイツの宰相ビスマルクの『愚者は経験に学び、賢人は歴史に学ぶ』の格言を引用され、「真岡高校125年の歴史を鑑みると、旧制中学校(5年制)の第1回入試定員100名に対し244名の出願があった。ストレートで卒業した者が38名とある。特筆すべきは、昭和9年制定の校歌に軍国主義的要素が一切なく、戦後改編されずに今も歌い継がれるのは極めて稀である。校章も県内でも例を見ない形姿で、頂に文化の灯を掲げ、栃の葉が内向せず大きく外に向かって開き、世界に羽ばたいていってほしいとの願いが込められている。私が入学した64年前、真高は『もうこう』と呼ばれ、記念館は正門正面にあり、その後ろに木造校舎が並んでいた。校門をくぐった時の不安と畏れの感覚を今でも思い起こす。数多のOBの中で、野澤一郎先輩（バレーボール創設者）は、多額の私費を投じて昭和29年校庭拡張工事に伴う大ケヤキ移設の難工事を成功させ、かつ昭和32年野澤一郎育英会を創設された。昨年度は県内88名の有為の大学進学予定者が奨学金を授与されている。偉大な諸先輩に続いていくことを祈念している。」と話されました。

その後、定時制課程の保護者と生徒は記念館講堂に移動し、オリエンテーションに臨みました。期待と不安が入り混じった入学式での表情から一転、「仲間と共に歩いていくんだ。」という安堵と希望に満ちた表情が見て取れました。

■新任式・第1学期始業式・離任式

4月8日（月）記念館講堂で、新任式・第1学期始業式・離任式が行われました。この日は例年、慣れ親しんだ人との別れ、新しい人との出会いが交錯する日です。

新任式では、栃木高等学校から須藤優教頭先生(理科)、栃木女子高から小椋康裕先生(理科)、新たに桑原宏朋先生(数学科)をお迎えしました。新任者を代表して須藤教頭が、「新入生のみなさん同様不安でいっぱいだが、新しい学校で日々勉強しながらともに



成長していこう。」とやさしく語り掛けられました。



始業式で荒井校長は、「春休みはどう過ごしたか？ 年度初めに新たな目標をもったか？ 目標を達成できるにこしたことはないが、たとえできなくてもその努力は決して無駄にはならない。私も昨年、年間読書20冊読破を目標にしたが、17冊と目標達成に至らなかった。それでもやってよかったと思うし、今年もチャレンジしたいと思う。みなさんもぜひ目標を立ててほしい。来週1週間の短期目標でもよい。『朝何時に自分で起きてみる』等、目標を1つ1つクリアしていくことが大切だ。前向きな目標を掲げ、この1年が充実した年になることを期待している。」とのメッセージを送られました。

離任式には3人の先生が来校されました。佐藤成之先生は黒羽高等学校に教頭として赴任されました。この場に立って、異動したんだと実感した。赴任先は夜になると天空をフクロウが舞う。その下の土俵では、相撲部員がぶつかり稽古をしている。その地でみなさんの活躍を見守っている。辛いときは他人に助けを求めてもいいから、自分を信じ続け日々努力してほしい。」と熱く語りかけました。佐野東高に異動された篠原義勝先生は、「新しい環境に放り込まれ不安な日々を送るのは、新1年生と同じだ。わからないことを質問し、新しいことを覚えるのは楽しみでもある。前向きに頑張っていってほしい。」鳥山高に新任された横川航一先生は、「昨年10月に採用試験に合格して以来、残された時間を大切に思いみなさんと過ごしてきた。旧2年生のことを遠くから見守っている。」と担任された新3年生へのあふれる思いを吐露しました。

■新入生歓迎会・交通講話

4月9日（火）記念館講堂で、新入生歓迎会が開かれました。須藤教頭は挨拶で、「この出会いに感謝の気持ちを持ち、常に一期一会を大切にしてほしい。」と話されました。生徒会長の小笠原颯汰君（3年次）は在校生を代表して、「毎日登校して授業を頑張ろう。そしてぜひ生徒会に入り、一緒に学校を盛り上げていこう。」と2年間で積み重ねてきた自信を秘めた面持ちで、歓迎の言葉を掛けました。学校紹介でクラス・部活動・学校行事等が映像で紹介されると、生徒たちは期待に満ちた眼差しで楽しんでいました。



新入生を代表して日下陽貴君が、「不安はあるが、先生方や先輩方に教えてもらいながら、一日も早く学校に慣れ、この伝統ある真岡高校の一員として胸を張れるように努力していきたい。」と原稿を一切見ず、堂々たる挨拶をしました。

給食後、記念館講堂で交通講話が行われ、係の小椋康裕先生は「日々の登下校は、あの角から何かが出てくる“かもしれない”と危険予測して、事故を未然防止することが必須である。」と危険予知の重要性について話されました。また会津地方で過ごした少年時代の登下校のエピソードに、生徒も熱心に耳を傾けていました。「真岡警察署管内でも年間30～40件の重篤事故が起きており、ヘルメット着用の努力義務と自転車運転時の任意保険加入義務を推進していく。自分の命は自分だけの物でない。自分を日頃フォローしてくれる周囲の人々の存在も思い描いてほしい。」と結ばれました。

■情報モラル教育

4月12日（金）各HR教室で、LINE みらい財団のオフィシャルインストラクター眞木真理様によるZOOM オンライン授業が開催されました。机を向かい合わせて3～4人の班を作り、『スマートフォン等の使い過ぎについて』と題しての講話と実習に、生徒は興味津々で取り組んでいました。生徒の中にはスマホに依存した結果、昼夜逆転生活に陥り、豊かな体験や学習する機会を失っている者も少なくありません。本講座では、カード教材やワークシートを用いてグループディスカッションを行い、自らネットとの上手な付き合い方や適切なコミュニケーションスキルを身に付ける絶好の機会となりました。

■本校創立記念日

4月19日（金）講堂に、佐藤務同窓会長様以下4名の同窓会役員様をお迎えし、創立記念式及び記念講演会が挙行されました。

荒井校長は挨拶の中で、「今日は本校の伝統を再確認し、これまでの歩みを振り返る日だ。当時の芳賀地区には尋常小学校卒業後の進学先がなく、地域の熱意ある嘆願に栃木県が動かされた。資金の半分以上を町民の私財寄付により、明治33年（1900年）に本県3番目の旧制中学校が開校し、今年で125周年を迎える。昭和26年に現校名となり、昭和44年に現校舎が完成して今日に至る。その際、記念館は今の位置に移設された。後に大塚実氏（大塚商会創業者）のご尽力により、東日本大震災により半壊した記念館の復元と校庭の人工芝化がなされた。野澤一郎氏同様、お二人にはここで学んだ『至誠』の精神が根底にある。君たちも校訓の具現化に努めてほしい。」と言葉を掛けられました。『至誠』とは「人を欺かず、己を欺かず、自己の良心を尊び、善と信ずることは必ず実行する。」ことであり、5つの時代に渡って脈々と受け継がれてきました。職員生徒一同、今後実践していきたいものです。

佐藤同窓会長様（昭和36年度卒）は、本校の象徴である校庭の大ケヤキの由来に触れられました。冒頭で萩原朔太郎の『五月の朝の新緑と薫風は私の生活を貴族にする』の一節を引用され、「昭和29年校庭拡張工事に伴い、伐採される運命にあった6本のケヤキを、野澤一郎氏が莫大な私費を投じて東京から5名の技術者を招聘し、40日かけて移設に成功した。昭和44年創立70周年を記念して、生徒会を中心に命名された11本の大ケヤキのうち、令和3年にNo10『歩』が樹木老化で伐採された。しかし樹齢約130年の大ケヤキは、幹の一部をモニュメントとして遺し、本日除幕式が行われた。伝統とは生命の継承であり、日々刻々成長するものである。未来永劫、古き歴史に新しい命が加わっていくことを祈念する。」と述べられ祝辞とされました。

記念講演会は、本校OBで三井住友海上火災保険の前理事・赤上剛氏（昭和34年度卒）により、『学ぶとは変わる。人権を学ぶ、差別しない社会と自然との共生実現へ』と題してご講演をいただきました。自己紹介で「当時は父親が戦死した家庭も多く貧しかった。当時の進学率が高校5割・大学3割の時代であり、通学列車はガソリンで走る3両編成で、先頭車両は女子学生、最後尾は男子学生に分けられていた。また当時の新任教員の中には、数年して東京の大学院に進む者も少なくなく、その後の学術界での成功者も多かった。」と本校の思い出を語られました。

赤上先生は田中正造の研究者として知られ、「近代化は地中の銅を掘り、銅線に加工して電力を送ることから始まった。たちまち日本の銅は掘り尽くされ、各地で甚大な公害が発生した。銅1トン作るのに約4倍の毒が出ると言われ、鉱毒ガスにより、足尾銅山の周囲は草木1本すら生えず、鉱毒水は渡良瀬川流域に流れ込んだ。住民や農作物への被害は計り知れず、6千人近い死者を出した日本最大の公害事件に発展した。福沢諭吉は『文明とは人の智徳の進歩』と説いたが、正造は『真の文明は山を荒らさず、川を荒らさず、村を破らず、人を殺さざるべし』と遺し、現代においても心に響く。当時の日本は挙国一致の旗の下、被害農民の立場がどこまで汲みあげられるか、きわめて疑問な時代背景だったにもかかわらず、正造は衆議院議員を辞して、命がけの覚悟で天皇直訴をするも叶わず、全財産を投じ鉱毒反対運動に生涯を捧げた人生だった。」と結ばれた。先生の幅広い知識に基いた多く



の興味深いお話は心振るえるもので、多くの職員生徒が感銘を受けていました。

■校内防火防災避難訓練・第1回専門委員会

4月26日(金)、地震発生のもち事務室から出火したとの想定で、各教室より全日昇降口前までの避難訓練が行われました。火災の場合、教室は電気を消さず、窓を閉めカーテンを開けたままで避難するよう事前の指示がありました。生徒はみな黙って速やかに移動したため、3分程度で整列完了しました。

須藤教頭から「訓練は何のためにやっているのか？ 最近の地震の多発等、自分の想像を超えたことが起こりうるし、今日通ってきた通路がふさがっているかもしれない。その場で想像して行動する必要がある。怪我をした友を連れて逃げなければならないことも予想される。今日のこの訓練で答えが出ているはずだ。」と、含蓄ある講評をいただきました。

その後、各教室で専門委員会が行われ、各委員会の委員長・副委員長及び、前期の目標・活動予定が決定しました。

出版委員会	委員長 篠崎遼 君 (3年次)	・副委員長 千葉陽翔 君 (3年次)
保健体育委員会	委員長 檜山竜之介 君 (3年次)	・副委員長 マツノトシロ 君 (4年次)
図書委員会	委員長 塚田心美さん (3年次)	・副委員長 長谷希花さん (3年次)

■PTA 総会・第1回保護者給食試食会・授業参観



5月10日(金) PTA 総会に先立ち、保護者の給食試食会と授業参観が開催されました。試食会は年間5回開催予定で、350円で生徒と同じ給食を食べられるとあって毎回好評を得ています。7名の保護者の方が参加され、メニューは山菜おこわ・かぶの味噌汁・さわらの竜田揚げ・具沢山玉子焼き・小松菜の湯葉和え・アセロラゼリー・牛乳で、「こんなに盛り沢山でおいしいの！」と驚いていらっしゃいました。年間5回予定されておりますので、ぜひお越しください。

その後の担任による授業参観では、生徒の多くが緊張の中にも、積極的に発言して活躍しようとする意気込みが随所に見られるなど、安心して授業に取り組む姿が見られました。

次に金壽ひろみ様(昨年度監事)により、応接室で会計監査が行われました。総会は3F自習室で、同じく金壽様の議事進行により滞りなく進みました。続く職員紹介の後、クラス懇談が行われ、「中学時代より進んで登校し、学校が楽しいと言っている。本校に入学して本当によかった。」との声が多数聞かれました。金壽様におかれましては、PTA 会計監査の重責を3年間担っていただきました。厚く御礼申し上げます。令和6年度の新役員は次の通りです。皆さま1年間よろしくお願いします。

会 長 日下田すみれ様 (2年次)	理 事 水上純子 様 (4年次)	中尾光世 様 (3年次)
副会長 檜山智子 様 (3年次)	岡本浩重 様 (2年次)	山口久美 様 (2年次)
監 事 (会計監査) 千葉里花 様 (3年次)	上野玲栄 様 (1年次)	藤村由紀子 様 (1年次)

■第1回生徒総会

5月17日(金) 4校時多目的室で生徒総会が開催され、司会進行を東斗和君(3年次)が務めました。生徒会長の小笠原颯汰君(3年次)が挨拶で、「1人1人が自分たちの学校をもっとよくしていくんだという自覚をもって、しっかり参加してほしい。」と語り掛けました。

須藤教頭は「生徒会は社会の縮図とも言えるだろう。人は他人と関わってこそ成長することができ、自分以外の人の気持ちを読めるようになる。下級生は上級生の動きを見て学び、次の代につなげていってほしい。」と話されました。

議事進行では、議長を宮田洸君(3年次)副議長を水上拓海君(4年次)、議案報告では見目愛里沙さん(3年次)田迎菜摘さん(2年次)栗田蒼生君(3年次)中尾惺君(3年次)が各々行い、基本計画が承認されました。生徒が真摯に取り組む姿に、今年度の定時制の明るい未来が見えたようでした。



■新体力テスト

5月20日(月) 快晴の空の下、グラウンドで50m走・立ち幅跳び・ハンドボール投げ・上体起こしが行われました。給食後、体育館に場所を移し、握力・長座体前屈・反復横跳び・シャトルランが行われました。シャトルランには体力自慢の先生方も飛び入り参加し、最後まで生徒と競い合っていました。男子を中心に全力で取り組む姿が見られ、昨年より体力の向上が顕著でした。これもふだんの体育の授業にしっかり取り組んだ成果だと思います。上野泰輝君(1年次)の走力・握力は抜群で、ここ数年でNo.1でした。今日一日で、体を動かす喜びに目覚め、記録に自信を得た結果、部活動に加入する生徒が増えたのは喜ばしいことです。

■第1回進路ガイダンス・第2回保護者給食試食会

6月7日(金)、行事に先立ち保護者の給食試食会が行われ、4名の保護者の方がメニューの麦ごはん・豚肉の生姜焼き・切り干し大根の炒り煮・野菜の海苔チーズ和え・けんちん汁・青梅ゼリー・牛乳に舌鼓を打っていらっしゃいました。「美味。子供の栄養バランスにすごくいい。大満足。」との感想をいただき大好評でした。その後の進路ガイダンス見学会は7名の保護者の方が参観されました。ともに日頃の活動を間近に見る絶好の機会となったようです。



進路ガイダンスが全学年次を対象に、晃陽学園・TBC 学院の各分野の講師陣22名をお招きして、開催されました。多目的室で塚副校長様(TBC 学院)の全体説明を受けた後、各教室に分かれて21分野の職業別体験型ガイダンスをニコマ受講しました。内容は、救急救命、栄養、コンピュータ、CG・アニメ、eスポーツ、ビジネス、公務員、看護、介護福祉、医療事務、保育・幼児教育、イラスト・デザイン、自動車・二輪車、エンターテインメント、メタバース、調理・製菓、メイク・ネイル、ファッション、動物、理容・美容等、就職講座と多岐に渡りました。

多くの生徒が将来の進路決定に向けて真剣に話に聞き入り、体験に目を輝かせていました。「先生の説明がわかりやすく楽しかった。」との感想も上げられていました。eスポーツに参加した黒川愛織さん(2年次)は「スーパーマリオのゲーム操作を体験し楽しかった。」と満足気でした。就職希望者ガイダンスに参加したマツノトシロ君(4年次)は「面接のやり方や履歴書の書き方を丁寧に指導していただき、ありがたかった。」水上拓海君(4年次)は「就職試験で出るSPI テストの対策法がわかった。問題集を買ってしっかりと対策していきたい。」岩崎夕希さん(4年次)は「講師の先生からいただいた資料のおかげで、求人票の見方や履歴書の書き方がわかるようになった。」と就職に向けた意気込みを新たにしていました。

■県高等学校定時制通信制総合体育大会

6月15日(土)、県定通総体が県内の各会場で開催されました。本校からは柔道男子75kg以下級に檜山竜ノ介君(3年次)がただ一人参加し、会場の宇都宮高校柔道場で熱戦を繰り広げるはずでした。残念ながら他校のエントリーがなかったため、不戦

勝となりましたが、8月3・4日に講道館で開催される全国高校定時制通信制総合体育大会の団体（栃木県チーム）・個人（男子75kg以下級・無差別級）の出場資格を得ました。昨年度掲げた目標である全国制覇を期待しています。

■性に関する講話

6月21日（金）講堂に、NPO法人ウイメンズとちぎ理事長丸山文子先生をお招きし、「性暴力について考えよう～大切な心と身体を守るために10代のうちに知っておきたいこと」と題した講演が全定合同で行われました。

先生は冒頭でワークシートに解答させた後で、性暴力の具体例に対する各人のイメージのばらつきを指摘され、「今日来た目的は『レイプ神話』をなくすためだ。」と話されました。（加害者はもちろん悪いが、被害者にもスキがあったと思うので自己責任と言われても仕方がない。）〈本当にイヤなら命がけて抵抗すべき、抵抗しなかったら、同意があったと思われても仕方がない。〉の一般のイメージに対し、「レイプは赤ちゃんからお年寄りまであり得る。」とのお話は納得でした。また「女性と違って、男性の性的衝動は止められないので、大目に見るべきだ。」の問いに対しては、「みなさんは今、性衝動を抑えられているだろう。」と指摘されるや否や、生徒の関心を一気につかんだ瞬間でした。先生は「性暴力は魂の殺人だ。被害者、加害者、そして傍観者にもなってもいけない。行動する傍観者になってほしい。」と結ばれ、先生のたいへん聞きやすい率直なお話により、生徒は真剣に耳を傾けていました。

■定時制後援会理事会・総会

7月9日（火）理事会・総会に先立ち、応接室にて監事の齊藤敏彦様と井原朋之様が監査をしてくださいました。その後記念館1F会議室において、定時制後援会理事会、続いて2F講堂で定時制後援会総会が開催されました。多くの会員の方にお集まりいただき、荒川秀行副会長様の開会の言葉に続いて、鈴木定男後援会会長様の司会進行によりスムーズに会が進行しました。

議事の最後に、会員の菊地徹様から「最近各方面から、定時制課程に学ぶ生徒に関する良い話を聞く機会があった。義務教育で不登校だったが、入学後は皆勤賞を取るほど、毎日嬉々として登校している生徒がいる。先生方のご助力に感謝したい。」とのありがたいお言葉をちょうだいしました。会員の皆さまには本校の卒業生も多く、多くの思い出話や裏話までも披露され、終始和やかな雰囲気の下、閉会となりました。

令和6年度の新役員は次の通りです。皆さま、1年間よろしくお願いします。

会 長 鈴木定男 様（株式会社 山都）

副会長 荒川秀行 様（宝栄工業株式会社）

監 事 齊藤敏彦 様（株式会社 ホンデン製作所）

副会長 小池敏之 様（真岡工業団地総合管理協会）

監 事 井原朋之 様（富士ファイバー株式会社）

主な参加者は新役員様に加えて、橋本拓也様（神戸製鋼所真岡製造所）、三澤幸光様（三澤酒店）、佐藤克彦様（真岡製作所）、木下渉様（アムテック）、菊地透様（元真岡高校長）、大越善彦様です。貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。



■生徒会役員選挙

7月12日（金）記念館2F講堂にて、生徒会役員選挙立会演説会、その後1F会議室で投票が行われました。生徒会長候補（当選1）に1名、副会長候補（当選2）に2名の立候補がありました。定数内のため信任投票になりましたが、一般の選挙と同様、選挙管でお借りした選挙用器材を使って投票体験ができました。

須藤教頭はあいさつの中で、「生徒会の目的は何か？ 定義に『民主的教養を高める』とある。我々“民”が“主”なのだ。その反対は独裁、すなわち1人が決めることだ。また教養とは知っていることを集団のために上手に使えることであり、教養のある人とはそういう人を指すのだ。」と物事の本質をついたお話をされました。

司会は日下田風人君（2年次）が務め、選挙管理委員長の水上拓海君（4年次）が「みなさん一人一人が生徒会の一員だと自覚し、正々堂々と投票しよう。」と呼びかけました。ある候補者は「生徒会が生徒にとって身近な存在になれるよう、多くの意見を取り入れた行事を企画運営していきたい。」と学校の未来を真剣に考えた、聴衆の心に訴えかける見事な演説を行い、生徒たちも真剣に聞きっていました。選挙管理委員の生徒、マツノトシロ君（4年次）、塚田心美さん・長谷希花さん（3年次）、肥高準也君（2年次）、小河真斗君・佐藤蓮也君（1年次）も、投票所の会場作製や運営・撮影等、頑張っていました。

新役員は次の通りです。 生徒会長 山口翔 君（2年次） 副会長 渡邊龍斗 君（2年次） パリラ ローズさん（1年次）

■校内生活体験発表会・第3回保護者給食試食会

7月17日（水）、行事に先立ち保護者の給食試食会が行われ、7名の方がメニューの夏野菜とチキンのカレー・ターメリックライス・イカメンチカツ・こんにやくサラダ・お米のムース・ジョアに舌鼓を打っていらっしゃいました。「スパイシーで絶品、家庭でも参考にしたい。」との感想をいただき大好評でした。その後の発表見学会では、発表に感動して目頭を押さえる様子が見て取れました。

続いて記念館講堂において「生活体験作文発表会」が開催され、高井魅琴さん・檜山幸希君・サビオ・リンドシィ・ソトさん・パリラ・ローズさん（1年次）ラケブラント・ブリジッテさん・渡邊龍斗君（2年次）柴田伴香さん・栗田蒼生君（3年次）水上拓海君（4年次）がクラス代表として堂々たる発表をしました。長年おられる先生方からも歴代最高の発表だったとの声が上がりました。係生徒として東斗和君（3年次）が司会進行、見目亜里沙さん（3年次）が発表上の注意、中尾惺君・小笠原颯汰君・篠崎遼君（3年次）日下田風人君・田迎菜摘さん（2年次）も運営の役目を立派に果たしました。

荒井校長は挨拶の中で、「みなさんは全員が書いた中から選ばれた10名だ。選ばれたことを誇りに堂々と発表してほしい。」と話されました。講評で「発表者は立派だった。聞く側の態度も立派だった。前に歩けば壁に当たる。歩かねば進歩しない。大きな壁、尖った壁、壁の前に立ってどうしようか考える時間を取っていい。いい発表をしてくれありがとう。」と最高の賛辞を贈られました。

最優秀賞に輝いた栗田蒼生君（3年次）は、10月19日（土）に県教育会館で行われる県高等学校定時制通信制文化発表会の本校代表になります。結果は以下の通りです。

最優秀賞 栗田蒼生 君（3年次）『高校生になって学んだこと』

優秀賞 パリラ・ローズさん（1年次）『今の私』 サビオ・リンドシィ・ソトさん（1年次）『去年の私と今年の私』

■校内体育大会

7月18日（水）体育館で、校内体育大会（バスケットボール・バドミントン・卓球）が行われました。大きく体調を崩す者も怪我をする者もおらず、精一杯競技に打ち込んでいました。講評で須藤教頭は、「試合を通じて対戦相手の一面が垣間見え、今後互いに近づき知り合うチャンスになったことだろう。」と話されました。バスケットボール優勝の原動力となったプエブラ・フラ

ンス君（1年次）は「楽しかった。来年も頑張る。」と笑顔で答え、バドミントンの試合を終えた安納りりえさん(1年次)と黒川愛織さん（2年次）は互いに打ち合いながら、体育の時間のラリー記録を更新したと満面の笑顔でした。結果は以下の通りです。

バスケットボール 優勝 1年次チーム(プエブラ・日下・藤村・落合・小椋先生)
準優勝 2, 3, 4年次合同チーム(ラケプラント・宮田・マツノ・水上・相原先生)
バドミントン 優勝 東斗和 君(3年次) 準優勝 日下田風人 君(2年次) 第3位 渡邊龍斗 君(2年次)
卓球 優勝 檜山幸希 君(1年次) 準優勝 千葉陽翔 君(3年次) 第3位 篠崎遼 君(3年次)

■第1学期終業式

7月19日（金）記念館講堂において、第1学期の終業式が行われました。荒井校長は冒頭で、先日の前期・芥川賞及び直木賞の受賞者発表に触れ、夏休み中の読書と学期初めに立てた目標の修正の時間を確保するよう話を切り出されました。
続けて「『思い立ったが吉日』の言葉通り、大変なことは後回しにしてしまうのが人の常であり、自分自身もそうだった。挙句の果てに失敗を繰り返して追い込まれることが多々あった。それまでの『始めなければ終わらない』という考え方は、『～しないとダメだ』のように自分自身を追い詰めてしまうことにつながる。ある時『始めればいつかは終わる』と発想を変えたことで、仕事に早く取り掛かれるようになり、気持ちが楽になった。『～すればうまくいく』のような前向きな表現の仕方を工夫することで、相手の受け取り方にも違いが出てくる。『リフレーミング』すなわち、別の視点から見てみよう。この休み中、自分の夢や希望を叶えるためにいい夏を過ごして、その成果を第2学期以降に発揮してほしい。」と結ばれました。

●クラス関係一覧●

学年次（正担任）	在籍	皆勤賞（7月4日締め）
1年次（夕・夜）小椋（理科）	19名	日下陽貴・菅谷翔希・檜山幸希・プエブラ・フアン
2年次（夕・夜）九石（保健体育科）	10名	黒川愛織・肥高準也・山口翔・横山陽斗
3年次（夕・自校三修）桑原（数学科）	13名	篠崎遼・千葉陽翔
4年次（夕・科目履修生）江田（英語科）	3名	なし

□「真岡高等学校定時制 HP・給食室より」は毎日更新、ぜひご覧ください！

中島彩子学校栄養士により多彩なメニューが写真付きで毎日更新されています。毎日手書きされるメニュー板は、友人既だと専らの評判です。毎日給食を食べることで、健康的な食生活を送れ、心と身体を健康を維持し、生涯にわたって「食べる力」＝「生きる力」を育ててほしいと思います。ご家庭でも給食の話題から、フードロスやお金のありがたさについて、お話しくだされば幸いです。
以下は6月18日のHPからの抜粋です。「今日の主菜は、手作りのロースとんかつでした。大きくてボリュームがあったので、半分（3切れ）のお皿も用意しました。副菜に使用したひじきは海藻の中でも栄養満点で、特にカルシウムや食物繊維、マグネシウム、鉄などが豊富に含まれています。食品に含まれる鉄分は「ヘム鉄」と「非ヘム鉄」に分けられますが、ひじきに含まれる鉄分は「非ヘム鉄」です。今日は豆腐と一緒に煮物にしましたが、あまり人気がなく残念でした。」



★白布のかぜ～あとがきに代えて～

盛夏の候、みなさまにおかれましてはいかがお過ごしでしょうか。平素から定時制教育にご理解とご支援をいただき感謝申し上げます。

さて暖冬による梅の凶作、また6月の高温障害によるサクランボの歴史的不作も昨今の気象変動によるものでしょうか。この夏もたいへんな猛暑が予想されますので、くれぐれも熱中症予防にご留意ください。またコロナウイルスが5年目を迎え、発生情報の公表がなくなったため、収束を迎えたかの印象ですが、かかりつけの医師によればものすごく流行っているとのこと。今後も十分な予防を心掛けください。

さて、先日スーパーのセルフレジのまごつきから、自分もインフォメーション・プア（情報弱者）なんだなと思ひ知らされる経験をしました。そんな時「『70歳でヨボヨボの人』と『70歳で快活な人』は何が違うのか」（キム・ヘナム著）を読む機会を得、最も印象に残った点を上げてみます。

「かつては年輪を重ねた年長者たちの知恵が、下の世代の人生において重要な指針になった。そのため若者は困難に直面すると必ず集落の長老を訪ねてアドバイスを求めた、長老は日頃から敬われていた。とはいえ現代のように急速に変化する時代では、過去の知識はすぐに意味を成さなくなる。科学技術の飛躍的な発展が、前世代の知識を使いものにならなくしてしまうからだ。そのせいで年長者の考えは古くさいものとされ、誰からも耳を傾けられなくなる。

このように歴史的な連続感を失ってしまった人々にとって老いることは、若さや美しさ、名声のほか魅力を失って、役立たずに成り下がることを意味する。そのため人類学者マーガレット・ミードは30代以上の人々に対し、よくこう言っていたそうだ。『私たちは皆、若者たちの世界へと移り住んだ移民だ』移民たちが現地の人たちに交じって生き残るためには、かなりの労力が必要だ。だが悲しいことに年を取れば取るほど、新たなスキルを習得し、ついていくのは難しくなる。するとある瞬間にすっかり置いていかれて、ついていくことを諦めるようになる。すると世間から向けられる否定的な視線に抗うエネルギーも楽天性も失ったまま、良い時期はとうに過ぎ去り、もはや悪いことしか待っていないような気がしてくる。（中略）

健康に年を取りたいのなら、自分の身体年齢にあまり固執しないことだ。70歳になろうが80歳になろうが、年齢とは関係なく『昨日より今日、今日より明日と少しずつ成長する自分』を念頭に置いて生きるのである。実際、延世大学哲学科の名誉教授キム・ヒョンソクは、『100歳まで生きてみたら60歳までの自分は未熟だったし、自分の人生における黄金期は、65歳から75歳だった』と語っている。」（PRESIDENT Onlineより抜粋）

保護者の皆さま、地域の皆さま、そして私たち教職員、真岡高校定時制に関わる全ての方々が、つつがなく第2学期を迎えられますことを祈念しております。（渉外部）



※令和3年に樹齢約130年の大ケヤキ No10『歩』が樹木老化で伐採されたが、幹の一部のモニュメントが職員玄関に展示されています。